

青梅市文化財ニュース

第414号

令和4年4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

ふきこもり

「“ふきごもり歌”という歌があるが“ふきごもり”とは何か」という市民からの質問が令和2(2020)年にありました。しかし、「ふきごもり」「ふきごもり歌」とも誰も知りません。歌にヒントがあるかと思い質問者に歌ってもらおうと「ふきごもり歌」は次のような歌でした。

♪ みたけの者はよいこ持つ 持つはずよ
権現様ごんげんさまの申し子よ 権現様の申し子よ
めでたいこれの棟上げの 屋根屋さん
祝いのかねのななまる 祝いのかねのななまる
お泊りありて お聞きあれ
ウグイスの鳴く音おとはおもしろいもの おもしろいもの ♪

この歌詞から、建築時の祝い歌かと思われたので調べてみました。

「ふきごもり歌」の「ふきごもり」は、「ふきこもり(葺き籠り)」という「茅葺き屋根が葺き上がった時に行われるお祝い」のことでした。現在でも行われる「地祭り(地鎮祭)」や「建前(上棟式)」などと同じ建築儀礼の1つです。未だ壁の無い柱と屋根だけの建築構造であった古代では、「ふきこもり」は屋根が葺き上がった祝いであると同時に建物の完成祝いでもある、大切な建築儀礼でした。ところが、青梅市内では現在、「ふきこもり」が行われなくなっています。そこで「ふきこもり」について史料を探してみました。

- ・安政6(1859)年の記録・・・「又右衛門本宅新きに五月廿三日立前(建前)有。七月八日より家内ふしん初り廿三日にふき終る。(中略)ふきこもりに呼れ申候。」
- ・昭和45(1970)年頃の記録・・・「葺き籠り 屋根屋が屋根を葺き終って棟まで葺き上った時に、職人や手伝人に酒や煮物を出し、刈り上げの祝いをした。サンリンボウの日(猪、牛、寅の日)には屋根葺きをしてはいけないという。」

これらの記録から、江戸時代の安政6(1859)年から昭和45(1970)年頃までは「ふきこもり」が行われていたことが分かりました。

次に「ふきごもり歌」については、歌詞の「みたけの者はよいこ持つ 権現様の申し子よ お泊りありてお聞きあれ」などから「御岳のふきごもり歌」かと思いました。し

かし、御岳地区を中心に市内でこの歌を知る人を探しても見つかりませんでした。地域を広げ調べると、奥多摩町の大丹波^{おおたば}と日原^{にっばら}に「ふきごもり歌」が伝わっていました。両地区の「ふきごもり歌」は、屋根が葺きあがった時に行われる「ふきこもり神事」の餅を搗く時の歌でした。そのうち、「大丹波のふきごもり歌」は質問された「ふきごもり歌」の歌詞とよく似ているので、「大丹波のふきごもり歌」を昭和 30(1955)年頃の史料から抜粋します。

♪ 目出たいこれの棟上げの

屋根屋さん

祝のかねがななまる（或いは、祝のかねがななぼん）♪

最後の 3 節目は繰返す。繰返す部分だけは参加者全員が声を揃えて景気を付ける。次に、目出たい意味の祝い歌がいくつも歌われた後に、自由な村民の生活感情を歌い上げたものが、次々と披露される。

♪ サイトリサシはよい男

さし上げて

お宿がなくばお泊り ♪

♪ お泊りありてお聞きあれ

うぐいすの

鳴く音は面白いもの ♪

♪ 御嶽の者はよい子もつ

持つはずよ

権現様の申し子よ ♪

以上の歌詞のうち、太字の部分は質問された「ふきごもり歌」の歌詞と同じであることが分かります。この事について奥多摩町大丹波在住の「ふきごもり歌」に詳しいという古老に尋ねると、大丹波側から見た青梅市の御岳のことを歌ったと聞いているとの話でした。質問された「ふきごもり歌」は「大丹波のふきごもり歌」であるとして良さそうです。

市民の質問から、市内では昭和 45 年頃まで行われていた「ふきこもり」という建築儀礼について知ることが出来ましたが、「ふきごもり歌」は見つかりませんでした。

参考文献

『日本史広辞典』、『青梅市史史料集第 46 号（市川家日記）』、『青梅市の民俗（1）』、『多摩郷土研究』第 19 号・20 号

（文責 三好ゆき江）